

令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
<p>考察</p> <p>1の項目については、「どちらかといえば そう思う」を選択した割合が、生徒及び教職員ともに80%を超えているが、保護者は70%程度に留まっている。これまでに以上に個に応じた丁寧な対応を心掛け、生徒に寄り添った指導及び助言を行っていく必要がある。</p> <p>2の項目については、「どちらかといえば そう思う」を選択した割合が、教職員が90%を超えているのに対して、保護者は75%に留まっている。道徳教育・人権教育を充実させ、生徒への深い理解と日常からの温かい関わりをこれまで以上に続けながら、生徒の豊かな心を育てていくために進んでいる取組について、保護者及び地域に対して、積極的に情報発信をしていく必要がある。</p>	

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していますか。
<p>考察</p> <p>3の項目については、「どちらかといえば そう思う」を選択した割合が、生徒及び教職員ともに80%を超えているが、保護者は70%程度に留まっている。授業参観や行事等を通して、保護者が学校に足を運び、生徒の様子や学校の様子を見てもらう機会を増やしていく必要がある。また、教職員についても、授業力・指導力の向上に向けて教材研究に努めていく必要がある。</p> <p>4の項目については、「どちらかといえば そう思う」を選択した割合が、生徒及び教職員ともに90%を超えているが、保護者は80%に留まっている。今後も、生徒自身が自らの学びに生かしていくため、ICTを積極的に活用していくことが大切である。</p>	

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
<p>考察</p> <p>5の項目については、「どちらかといえば そう思う」を選択した割合が、教職員は80%近いが保護者は60%に満たない。保護者に対して特別支援教育に関する啓発を行い、様々な情報を積極的に発信していく必要がある。また、教職員も日頃から特別支援教育についての研修に努め、個々の個性に応じた丁寧な支援を行っていくことが大切である。</p> <p>6の項目については、「どちらかといえば そう思う」を選択した割合が、生徒及び教職員ともに80%を超えているが、保護者は60%程度である。共生社会の実現に向けて、保護者に対しても積極的に情報を発信し、また、教職員も「交流及び共同学習」等の重要性について深く理解して推進していく必要がある。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>考察</p> <p>7の項目については、「どちらかといえば そう思う」を選択した割合が、生徒及び教職員と比べて保護者が15%ほど少なく、学校の安全教育の取組について情報を発信していく必要がある。また、災害対応や不審者対応等の様々な場面を想定した避難訓練を定期的に行い、毎月の施設安全点検を確実に行うことで事故防止に努めているが、今後もさらなる安全管理に努めていかなければならない。</p> <p>8の項目については、「どちらかといえば そう思う」を選択した割合が、教職員がほぼ100%に対し、保護者は65%程度と少ない。授業参観や学級懇談会を通して広く学校を公開し、通信等を活用して情報発信等に努めていく必要がある。</p>	

⑤ 学校独自の取り組み	
9 仲間を大切にしている心	10 自己有用感
子どもは、仲間と協力しながら活動し、その仲間を大切にしていますか。	子どもは、「自分には好きなところがある」と感じていますか。
<p>考察</p> <p>9の項目については、「(どちらかといえば) そう思う」を選択した割合が、生徒及び保護者ともに90%を超えている。今後も、他者を大切にしている心情を育む指導を充実させ、自らの良さにも気づくことができる生徒を育成していく必要がある。</p> <p>10の項目については、「(どちらかといえば) そう思う」を選択した割合が、保護者は80%を超えているが、生徒は70%とやや少ない。生徒と保護者の認識に差があることから、学校での生徒の様子等を日頃からこまめに家庭に発信し、実態を伝えていく必要がある。また、教職員もそれぞれの生徒の思いを十分把握し、日常生活の様々な場面において、自己有用感を高める取組を行っていく必要がある。</p>	

⑤ 学校独自の取り組み	
11 あいさつ	12 相談する力
子どもは、自分からすすんであいさつをしていますか。	学校は、いじめや問題があったときに、生徒たちに話を聞いていますか。
<p>考察</p> <p>11の項目については、「(どちらかといえば) そう思う」を選択した割合が、生徒が90%を超えているのに対して、教職員及び保護者の割合は低い。教職員や保護者、地域が積極的に挨拶を行うことで、互いに心のこもった挨拶ができる環境づくりを目指していくことが大切である。</p> <p>12の項目については、「(どちらかといえば) そう思う」を選択した割合が、生徒が90%を超えており、保護者の割合も80%と高い。概ね、学校の取組が理解されていると考えられる。それに対して、教職員の割合が少ないが、日頃から常に危機意識をもって生徒に対し、丁寧なかかわりを行っていくことが大切である。</p>	

来年度の具体的な取組について
<p>○「いのちを大切にしている心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応」については、豊かな人間性を育むために、道徳教育及び人権教育の充実を図り、生徒への深い理解と日常からの温かい関わりをこれまで以上に続けながら、いじめや不登校をはじめとする諸問題に対して誠意をもって丁寧に取り組んでいく。また、自己有用感を高める取組だけでなく、他者を大切にしている心情を育む取組を充実させていくことで、自分を認め、他の人も認めることができる生徒を育成していく。さらに、地域や保護者に対しても、学校の取組等について積極的に情報発信を行っていく。</p> <p>○「確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進」については、教師の授業力・指導力向上を目指し、自己研鑽に努めることで分かりやすい授業を行っていく。また、生徒の実態を把握して、集団及び個に応じた指導・支援を行っていく。さらに、授業の質を高めるためのツールとして今後も積極的かつ効果的にタブレットを活用するだけでなく、自らの学びに生かすためにどのようにICTを活用していけば良いかを生徒自身に考えさせていく。熊本市学力テストの結果についても、生徒の学習傾向を細かく分析して授業改善に繋げていく。</p> <p>○「教員が子どもと向き合うための体制の整備」については、保護者及び地域に対して特別支援教育についての啓発を行い、学校の取組についても積極的に情報発信していく。また、共生社会の実現に向けて、「交流及び共同学習」等を進めていくことが、生徒同士の相互理解の促進へと繋がっていくように、今後もインクルーシブ教育支援システム構築のための取組を行っていく。</p> <p>○「学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進」については、定期的に災害対応や不審者対応等様々な場面を想定した避難訓練を行うことで、生徒及び教職員に対し意識付けを行っていく。また、毎月の施設安全点検を確実に行うことで事故防止に努めるなど、今後もさらなる安全管理を行っていく。また、保護者や地域に対して、学校の取組を積極的に情報発信していく。</p>

学校関係者評価
<p>○授業中の態度も良好であり、学年が上がるごとに、落ち着いて先生の話聞いていた。生徒同士の会話もあり、話し合い活動も良くてできていた。また、どの教科においても、電子黒板やタブレットなどのICT機器を活用した授業がされており、基礎基本の定着に向けて様々な授業の工夫がされていることが分かった。生徒自身も自然にタブレットを操作しており、生徒の学力向上及び定着に繋がっていることが想像できた。今後は、タブレットを自らの学びにどのように生かすかを生徒自身がしっかり考えて活用できるようになってほしい。</p> <p>○いじめや不登校、諸問題への対応については、これまで丁寧に取り組んでいると感じるが、学校が直面する様々な問題が多様化・複雑化している中で、これまで以上に丁寧に細やかな配慮をお願いしたい。</p> <p>○コロナ禍が明け、以前行われていた学校行事や地域行事等が始まっているが、すべてを完全に元に戻すのではなく、精査しながら生徒の活躍する場を作ってあげてほしい。また、授業参観や学級懇談会等を通して、生徒だけでなく、先生方、学校の様子を見てもらうことで、積極的に保護者や地域に学校の教育活動についての情報発信を行ってほしい。</p>